

# ふるさとの昔話

## 宮下の水神待

宮下の皆さんは毎年十月二十七日になると宮下神社に集まり、共同炊事した食事をとりまします。この行事を水神待といい、地元の三国市太郎さん(六十二歳)が由来を語ってくれました。



宮下神社の水難記念碑



### 水害に耐えた祖先

古い書物によれば、宮下には約八百年前から集落があったとされています。富士川は今でこそおとなしい川ですが、昔は大変な暴れん坊で、宮下を初め富士川東岸地区の歴史や人々の暮らしは、絶えず水との戦いでした。

江戸時代に入り、かりがね堤が完成してからは水害は少なくなつたものの、それでも、明治に入ってから二年・十五年・二十九年・四十三年に大水害がありました。特に四十三年八月の大水害は、全戸がほとんど全滅するという大災害でした。

人々は、そのたびに強い意志で復旧に努め、現在の街の基礎ができていきました。

### 水神様を祭る

毎年十月二十七日に行われる水神待は、こうした多くの試練を乗り越えてきた祖先の生活の中から

生まれた行事です。人々は神社に水神様をお祭りし、水難を逃れるよう祈念する一方で、一年の無事を感謝するものです。

### 夕食をみんなで食べる

また、おそらく祖先は水害にあつたとき宮下神社に避難し、寝食を共にして励ましあつたのでしよう。そんな名残か、今でも水神待になると、当番班がつくつたけんちん汁とお茶飯の夕食を、めいめいがはし・茶わんを持参してみんなで食べます。ことしも子供からお年寄りまで二百五十人が参加しました。大勢で食べるけんちん汁の味は最高で、今では地域のコミュニティケーションの場としても大事な行事になっています。



三国市太郎さん

## 地名の由来

おが

まつ松



△今は松がなくなったかりがね堤

松岡村は、江戸時代初期には中里村の郷土古郡氏の領地で、籠下村と呼んでいました。延宝二年(一六五四)、古郡重年によってかりがね堤が完成し、堤の上に風水害よけに松を植えたので籠下村を松岡村と呼ぶようになりました。その後、松岡村は明治二十二年三月岩本村と合併して岩松村と呼ばれました。松岡村も岩本村のかりがね堤の完成によって今日の繁栄があります。

### こちら編集室

七ページで紹介した吉商のピリー先生は、日本語がまだ理解できません。ですから取材は、もちろん英語。そこで、編集室の自称英語通T氏の登場となりました。取材前、ふだんの自信はどこえやら緊張ぎみのT氏でしたが、すんなりこなし、株をすっかり上げました。さて、本号でことしは終わり。皆さんよいお年を。

## ニイハオ 你好



▷かたい握手を交わした 渡辺市長(右)と周市長 (昭和六十一年)

### いよいよ来年1月友好提携

このコーナーでは、これまで嘉興市のさまざまな様子をお知らせしてきましたが、いよいよ、嘉興市との友好都市提携が実現することになりました。

友好提携の調印式は、来年1月13日。嘉興市からは周洪昌市長を初め25人が来富する予定です。会場となる富士文化センターには、多くの市民の皆さんに集まっていただき、待ちに待った調印式が行われることになっています。

嘉興市の一行は1月9日に来日し、10日から16日まで県知事への表敬訪問など多彩な交流を行います。

特に、お互い「紙の都」同士ということもあって、製紙技術者もみえ、今後の経済交流の種がまかれるはず。身近になる嘉興市、あなたも国際交流してみませんか？

(御愛読いただいた「你好嘉興市」は今回をもって終了します。新年号から新企画が始まります。お楽しみに。)